

感染対策情報—R6.10月号—

今月のテーマは「入浴介助時の感染対策」です！



対策のポイントは「標準予防策」

全ての血液・体液・分泌物（喀痰等）・嘔吐物・排泄物・創傷皮膚・粘膜等は感染源となり、感染する危険性があるものとして取り扱うという考え方です。

入浴介助で触れるかも…



感染症流行期には、入浴者・介助者共に終了までマスク着用が望ましい！



入浴介助前

- ・入浴者の体調チェック（熱の有無、皮膚の状態、咳・下痢の有無など）
- ・入浴順の検討（感染症が疑われる場合は最後にする等）
- ・介助者の準備：標準予防策、体液に触れる可能性が想定されることや感染症の流行状況に応じて検討＊体液等が飛散する危険もあるためエプロンを着用
- ・外したオムツは、床に置かずビニール袋や用意したゴミ箱に入れる



入浴介助中

- ・介助者の手袋着用：ウイルスや菌が存在している可能性が高い物（排泄物、分泌物など）や部位（臀部、陰部、趾間など）を素手で触れることは避ける
- ・全身を観察する**チャンス！**（発疹や褥瘡、白癬などがいないか確認する）
感染症の早期発見は感染拡大防止の近道！



入浴後脱衣所において

- ・脱衣所で密にならないよう注意する
- ・浴室利用後には窓を開け換気を徹底する
- ・使用した椅子、車椅子、ストレッチャー、洗面器などを浴室用洗剤で洗浄する（特に体液等が付着した場合消毒も必要となる）
- ・脱衣所で使用した椅子、脱衣籠、ドライヤーなどは清拭用クロスで拭く